

視察報告書

令和6年11月18日

伊勢市議会議長 藤原 清史 様

会派 志誠会

浜口 和久

野口 佳子

令和6年11月6日～7日に先進地視察を実施しましたので下記のとおり報告します。

記

- 1 視察日 令和6年11月6日（水）～7日（木）
- 2 視察場所 山形県南陽市
福島県須賀川市
- 3 視察内容 南陽市（ラーメン課プロジェクトについて）
須賀川市（まちなかウォークブル推進事業について）
（駅西地区都市再生整備事業の概要について）
- 4 所 感

浜口 和久

●南陽市（ラーメン課プロジェクトについて）

担当の、みらい戦略課企画調整係が、平成26年に市内中高生に、「市外・県外の人に教えてあげたい南陽市の食べ物は何？」とのアンケートを取った結果、ラーメンとの回答が多かった。家族でラーメンを食べることが多いことと、豚骨・醤油・辛味噌等々種類も多々あり、麺の量も普通120gだと聞くがこの地域では



普通盛で160gであり、お客様のおもてなしにラーメンを出すところが多いということであった。そこで、南陽市のPR効果となることから、地方創生・地域振興・交流関係の人口拡大を目的に、市民だけではなく旅客とラーメンがタイアップするよう、市役所ラーメン課プロジェクトの事業としてラーメンカードラリーが開始された。また、漫画の「ラーメン大好き小泉さん」の第9巻に南陽市のラーメンが題材となり、書店とのタイアップができ、首都圏にお住まいの方にもラーメンカードラリーに参加してもらえるよう、横浜のラーメン博物館とタイアップができた。今では、手軽な食べ物でのラーメンカードラリーにより交流人口の増加があり、1億7千万円程の経済効果があったと試算されているが、まだまだ、知名度が低くもっと様々なところとコラボしていきたいとのことであった。中高生への食べ物アンケートから始まった事業であるが、南陽市みらい戦略課の成功例であり、今後の戦略が楽しい事例であった。

●須賀川市(駅西地区都市再生整備事業の概要について)
(まちなかウォークブル推進事業について)

街の課題として、震災により空き家・空き地の増加や、芭蕉記念館がなくなったことで、地域住民の交流の場や、文化団体の活動の場が減少したことにより地域住民の活性化と継続性が失われつつあったが、風流のはじめ館が整備されるタイミングに合わせ、民間事業者(都市再生推進法人)から整備の提案があり、景観舗装整備(石畳)の道路をメインとし、一宅地を目安に官民連携で行うこととなった。

事業の課題として、第2期整備計画の最終年度でウォークブル推進事業に移行したのだが、1事業だけしか行わなかったため事業期間や予算の都合で面的に広がりや欠けた感がある。事業を進めるにあたりウォークブル推進税制適用第1号であったため先行事例がなく手探りで、市民などに活動の理解と参加をいただくのに苦労した。また、民間主導のまちづくりを進めるにあたり、営利団体が主体となった時の行政職員が、どの程度密接に携われるか距離感にも苦労があったが、区域内の公共空間は高質な景観形成が進み、地域でも協力的に空間を利用できる取り組みに育ったことで、来訪者の回遊性も向上している。

整備終了から4年が経過し、ウォークブル推進事業として取り組んでいる事業ではないが、住民が主体となるまちづくりを進めた結果、民間主導のプラットフォームが立ち上げられ、イベントやマルシェの取り組みなど、歩きたくなるまちづくりが深化してきているとのことで、震災に見舞われた方々の復興魂の強さが感じられた。

●南陽市（ラーメン課プロジェクトについて）

南陽市には、全国的には珍しい課名である「ラーメン課」がある。ラーメン課とは、南陽市みらい戦略課企画調整係の事業「南陽市役所ラーメン課 R&R プロジェクト」のことである。南陽市がなぜ、ラーメンでまちづくりをしたかという、そのきっかけは中学生、高校生に「南陽市外の人に伝えたい南陽市の魅力は？」と、アンケートで聞いたところ「ラーメン」との回答がベスト4に入ったからである。

山形県は、全国で最もラーメンの外出回数が高い県である。南陽市は人気ラーメン店がたくさんあり、地元民もこだわりのあるお店を応援し、ラーメン愛好家の方も県内外から多く食べに来るので、新しい店舗がしやすい。様々なメディアが取材に来てくださり、山形鉄道に乗って、南陽市までお越しになるが、知名度はまだまだ乏しく、今後さらに交流人口を増やしていきたいとのこと。

どの地域においても、その場所での魅力ある食資源がある。伊勢市においても、文化政策課が伊勢うどん魅力発信事業ということで、古くから伊勢市民に愛されている食文化の調査研究を始めている。南陽市のように、魅力発信に力を入れていただきたい。

●須賀川市（駅西地区都市再生整備事業の概要について）
（まちなかウォークアブル推進事業について）

JR須賀川駅では、これまで「バリアフリー化されていないこと」、「駅前ロータリーが混むこと」、「時間つぶしする場所がないこと」、「駅の西側は道路も狭く、直接駅に行けなくて不便であること」などの課題があったが、改善すべく、都市再生整備事業に取り組まれたとのことであった。

駅西地区都市再生整備事業として、第一に、地元の方々の意見を計画に反映し、須賀川駅の西口と東口をつなぐ東西自由連絡通路を整備（バリアフリー化）している。第二に、駅西広場・ロータリーを整備することで、送迎車両の分散化を図っている。第三に、既存駅舎を「観光と交流の場」に生まれ変わらせたことで、駅を利用しない人も来なくなる場所となっている。第四に、駅西側の既存道路の幅を広げ、東西幹線道路を整備し、それぞれあった課題の解決を図ってきた。

また、まちなかウォークアブル推進事業では、風流のはじめ館に隣接する空地を「株式会社（須賀川市指定都市再生推進法人）テダソチマ」により整備し、広場化することで、居心地性を向上させた上、災害への対策も行われていた。

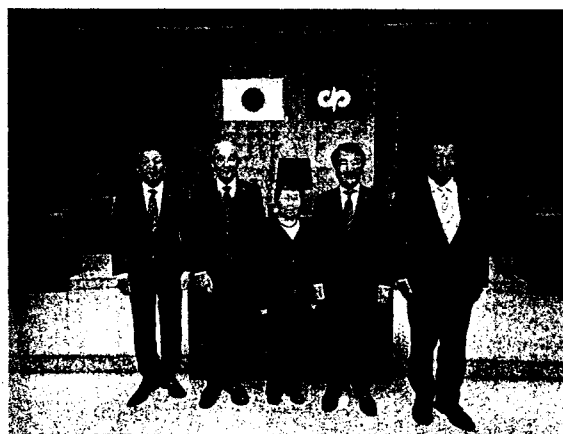
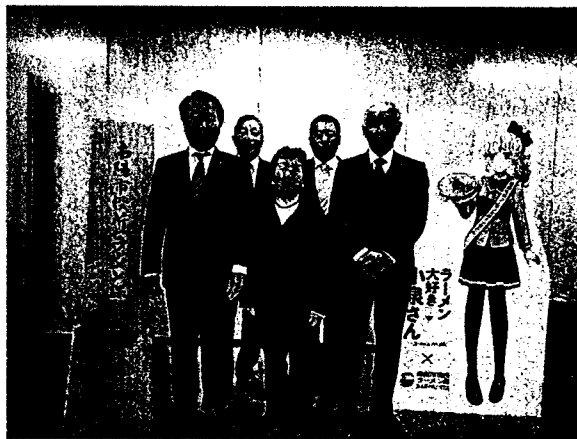
伊勢市の駅前の課題は、事業実施前の須賀川市と類似点があるため、全てとは

いかないが、課題解決のために参考になると感じた。

まちなかウォークブルについては、個々の取り組みだけでは効果はあまりないが、多くの取り組みを組み合わせることで相乗効果が期待できると感じた。居心地が良く、歩きたくなるまちづくりとなるよう働きかけていきたいと思った。

志誠会 視察

令和6年11月6日（水） 山形県南陽市



令和6年11月7日（木） 福島県須賀川市

